

令和6年12月4日

学生向け防災マニュアル

1. 日頃の準備事項

緊急時に備えて、以下のとおり、大学内や自宅等において日頃から準備することを確認しておきましょう。

○避難場所の確認（大学及び自宅周辺）

※土砂災害、洪水、地震等、災害ごとの避難場所を確認しましょう。

○自治体防災メール等の登録

○家族との連絡方法・待ち合わせ場所の確認

○大学・友人等への連絡方法の確認

○家具類の転倒防止の措置

○廊下等に荷物を置かない

○緊急避難アイテムの準備

○徒歩帰宅ルートの確認

○災害伝言サービスの確認

2. 地震の場合

— 焦らず、まず安全確保を —

【地震が発生】

- ・机の下や、落下物のない場所に身を隠し、カバンや衣服で頭を守る。
- ・ガラス窓には近づかない。
- ・脱出口確保のためドアや窓を開ける。
- ・エレベーターの中の場合、全ての階のボタンを押す。
- ・ゆれが収まってから、火を消す。

【ゆれが収まったら】

(大学内の場合)

- ・避難指示が出るまで、安全姿勢のまま教室で待機する。
- ・避難指示に従い、落ち着いて避難場所に避難する。
- ・階段は慎重に降りること（エレベーターは絶対に使用しない）
- ・避難完了後は、災害対策本部の指示を待つ。

(屋外での対応)

- ・頭をカバンなどで守り、建物から離れる。
- ・飛散するガラス等から身を守る。
- ・揺れが収まったら、避難場所まで避難する。

【災害が収まったら】

—むやみに移動を開始しない—

- ・ 交通機関（JR や路線バス）の運行、停電の有無、周辺の災害情報を確認する。
- ・ 誤情報や嘘に惑わされず、公的機関からの正確な情報を得る。

※明るいうちに徒歩で帰宅することができない場合は、大学構内で待機してください。

【外出先より帰宅する場合】

—大きな道を徒歩で帰宅—

外出先で被災し、帰宅指示後、帰宅する場合には以下のことに気をつけてください。

- ・ 明るいうちに、徒歩で自宅に到着できる場合のみ帰宅。
- ・ 同一方面の場合は集団で帰宅。

→お互いに助け合える状態にしておく。

- ・ 幹線道路沿いに帰宅する。

→幹線道路は道も広く歩きやすい。

→帰宅支援ステーションを利用する。

（コンビニエンスストアやガソリンスタンド）

3. 豪雨・土砂災害の場合

—情報収集し、「備える」—

【台風に備える】

- ・ 台風は事前に予測できる自然災害。
- ・ 規模や襲来時間等の情報をチェック。

【集中豪雨に備える】

- ・ 集中豪雨は、狭い地域に突発的に降るため予測が困難。
- ・ 自分がいる場所の土地条件や環境などを把握し十分な対策を。

【土砂崩れに要注意】

- ・ 家の側に高さ 4m 以上のがけがある場合、不安があればすぐに避難する。

●土砂崩れの兆候

- ・ 雨がやんだのにいつまでもわき水がでる。
- ・ 斜面から小石や土がパラパラ落ちてくる。
- ・ わき水や溪流が急に濁る。
- ・ 斜面にひび割れができる。
- ・ 山鳴りがする。

※泥臭いにおいがしたら土石流にも注意！

【危険な場所から避難】

- ・ 高潮や浸水、土砂災害の発生しそうな場所には近づかない。
- ・ 危ないと感じたときは、近所の人と連絡を取りあいながら早めに避難をすること。
- ・ 避難方法や避難場所は事前に確認しておく。

【避難指示が出たら】

- ・ テレビやラジオ等から最新情報を入手。
- ・ 一定の基準を超えると警戒レベルを用いた避難情報が発令され、報道機関や自治体、消防署、警察署から避難が呼びかけられるので、指示に従って避難する。

警戒レベル 3：高齢者等避難開始

高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

警戒レベル 4：避難指示

必ず危険な場所から全員避難してください。

(警戒レベル 5 緊急安全確保の発令を待ってはいけません)

警戒レベル 5：緊急安全確保

すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。

※市町村が災害の状況を確実に把握できるものでない等の理由から、警戒レベル 5 は必ず発令される情報ではありません。

4. 火災の場合

—まず知らせる(火災報知機等)—

【初期消火の対応】

- ・身の安全を確保した上で備え付けの消火器を用いて、消火を試みる。
- ・消火器が近くにはない場合は、水に濡らしたタオルや衣服などをかけ、空気を遮断して消火する。

【初期消火できずに避難】

- ・初期消火が失敗し、天井まで火が達したときは、すぐに避難する。その際はあわてて部屋を飛び出さず、冷静に行動する。

【怖いのは煙】

- ・濡れたハンカチ（無い場合は衣類等）を口にあて、煙を吸い込まないよう姿勢を低くして避難する。
- ・階段では手すりを持つ、もしくは手を壁にあて、慎重に降りる（エレベーターは絶対に使用しないこと）。

【トラッキング火災に注意】

- ・コンセントにプラグを長時間差し込んでいると、コンセントとプラグの間にたまったホコリが湿気を帯び、通電している電気によって発火することがあります。
- ・コンセントにホコリがたまらないように定期的に掃除をしたり、使わないコンセントにカバーをするなど、日頃からトラッキング火災の防止に努めましょう。

5. 安否の確認

【家族への連絡方法】

—大規模災害時に利用可能—

「災害用伝言ダイヤル 171」

○伝言を録音する

171+1+電話番号（市外局番から）

○伝言を再生する

171+2+電話番号（市外局番から）

「災害用伝言板 WEB171」

伝言の登録・閲覧方法

<https://www.web171.jp/>

電話番号（市外局番から）登録後に、文字による伝言を登録・閲覧ください。

【大学への連絡方法】

—落ち着いたら大学へ安否を報告—

○安否確認メール

非常の際は、埼玉大学安否確認システム（ANPIC）から安否確認メールを送信します。

被害状況等の必要事項を入力して、必ず返信してください。

○大学への緊急時連絡先（携帯サイト）

<http://www.saitama-u.ac.jp/mobile/emergency.html>

